





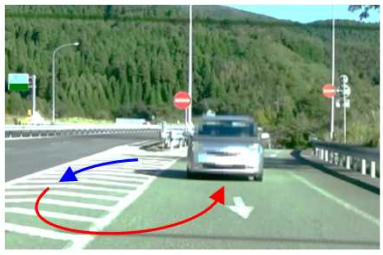




# 個別逆走事案の詳細調査

# A自動車道 Bインターチェンジ (逆走状況詳細)

- ①事案種別 : **確保** 事故
- ②確保時間 : 8月、9時台
- ③年齢・性別 : 30代男性

- ④高速利用頻度 : ほぼ毎日
- ⑤逆走の認識 : あり
- ⑥対策実施状況 : 本線合流部(矢印路面標示)

		1 逆走前	2 間違い時	3 逆走開始	4 逆走中	5 確保
現地写真						
						
運転者の口述による	標識等の認識・走行状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bインターチェンジまで2.3km地点の案内標識は確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左側車線を75km/hで走行。</li> <li>出口がカーブ部にあり、出口が見えなかった。</li> <li>出口標識が車両の左側に見え、乗り過ごしたことを認識。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本線とオンランプが合流する地点で転回し、オンランプへ鋭角に進入した。</li> <li>「進入禁止」の標識は見た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハザードをつけてランプの左側を10km/hくらいで走行。</li> <li>対向車に遭遇した場合は停止した。2台とすれ違った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>料金所手前で車を止めた。</li> <li>セーフティーコーンを動かしている時マイクで放送があった。</li> </ul>
	状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>配達時間に遅れており、急いでいた。</li> <li>トンネルに入るまでは次で降りることを意識していた。</li> <li>トンネルを出た後、ラジオに聞き入ったかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうしようと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車が少なかったので、逆走をした。</li> <li>ポストコーンが設置されていたらたぶん転回していない。</li> </ul>	—	—
知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>急いでいる時に特に注意が必要であることを喚起する。</li> <li>トンネル通過後の分岐部などに対する案内強化も有効。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>逆走による危険性を周知することも有効。</li> <li>視認性の悪い箇所の案内強化も有効。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポストコーン設置など物理的な抑止も有効。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>逆走となった場合の対処方法を周知することが有効。</li> </ul>	—	

# A自動車道 Bインターチェンジ (逆走発生プロセス)

**6) 逆走開始**

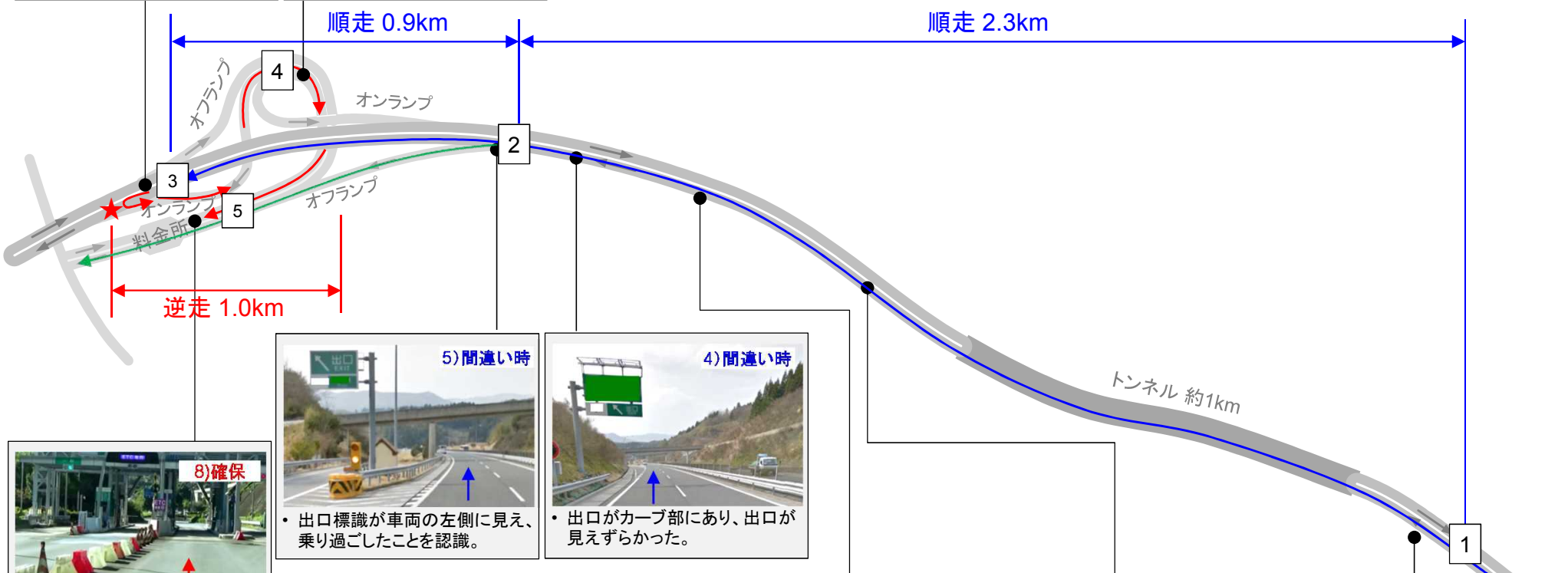
- 本線とオンランプが合流する地点で転回し、オンランプへ鋭角に進入した。
- 「進入禁止」の標識は見た。

**7) 逆走中**

- ハザードをつけてランプの左側を10km/hくらいで走行。
- 対向車が来たら止まった。2台とすれ違った。

凡例

- (blue): 順走
- (green): 順走(想定)
- (red): 逆走(実際)
- ★: 逆走開始



**8) 確保**

- 料金所手前で車を止めた。
- セーフティーコーンを動かしている時マイクで放送があった。

**5) 間違い時**

- 出口標識が車両の左側に見え、乗り過ごしたことを認識。

**4) 間違い時**

- 出口がカーブ部にあり、出口が見えなかった。

**3) 逆走前**

- 左側車線を75km/hで走行

**2) 逆走前**

- トンネルを出た後、ラジオに聞き込んだかもしれない。

**1) 逆走前**

- Bインターチェンジまで2.3km地点の案内標識は確認。

# C自動車道 Dインターチェンジ (逆走状況詳細)

- ①事案種別 : ~~確保~~ 事故
- ②確保時間 : 10月、10時台
- ③年齢・性別 : 60代男性

- ④高速利用頻度 : ほとんど利用しない
- ⑤逆走の認識 : あり ※途中から認識した
- ⑥対策実施状況 : 本線合流部(矢印路面標示・ラバーポール) ランプ合流部(矢印路面標示)

		1 逆走前	2 間違い時	3 逆走開始	4 逆走中	5 逆走→順走
現地写真						
運転者の口述による	標識等の認識・走行状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予定の一般道ルートが悪天候により通行止めで、待ち合わせ場所のH市へ急いでいた為、高速道路を利用することにした。</li> <li>• 料金所手前で駐車場に立ち寄り、トイレに行った。</li> <li>• 料金所手前を横断しつつ、ETCレーンから入った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前方の方面案内板(100m先)の右側(H市方面)を確認して、それが右側に見える対向車線を指すものと誤解した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バックした後、コーンの間を通り抜け、対向車線に入った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 進入禁止の標識、進行方向の路面標示は確認できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 転回して、H市方面の本線に入った。</li> </ul>
	状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この時、普段の高速道路の入り方と感覚が少し違っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プラザ中央のロードコーンの配置から、車が十分通れる間隔であることを確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コーンの間隔が十分にあった為、右側の道路がH市方面へ向かう正しい道と勘違いをした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 違和感を覚え始めた。</li> <li>• 本線を視認したことから、自分が逆走していることを確信した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• このまま転回すれば、H市方面に向かえると考えた。</li> <li>• 「逆走車あり」の情報板を見て自分のことかなと思った。</li> </ul>
知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• いつもと違う時、急いでいる時に特に注意が必要であることを喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 走行経路に沿った分かりやすい案内誘導が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 逆走を未然に防ぐ物理的な分離が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 逆走中の車両に対して、「逆走」であることを明示することが有効。</li> </ul>	—	

# C自動車道 Dインターチェンジ (逆走発生プロセス)



1) 逆走前

- 予定の一般道ルートが悪天候により通行止めで、待ち合わせ場所のH市へ急いでいた為、高速道路を利用することにした。



2) 逆走前

- 料金所手前で駐車場に立ち寄り、トイレに行った。



3) 逆走前

- 料金所手前を横断しつつ、ETCレーンから入った。
- この時、普段の高速道路の入り方と感覚が少し違っていた。

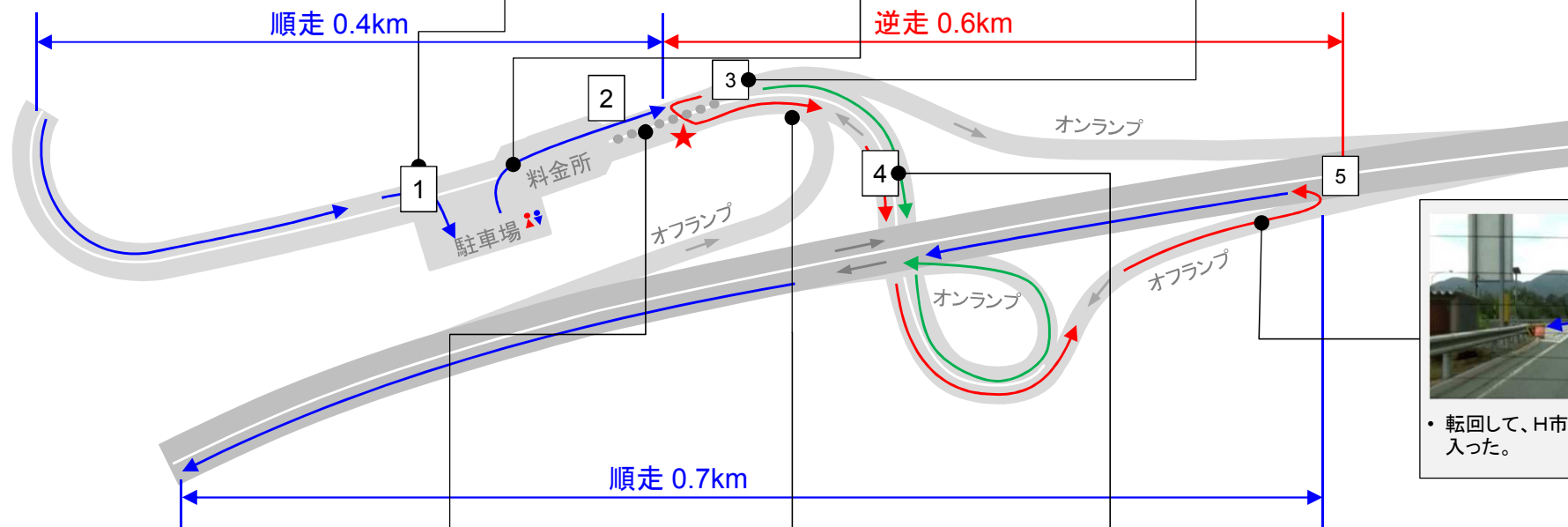


4) 間違い時

- 前方の方面案内板(100m先)の右側(H市方面)を確認して、それが右側に見える対向車線を指すものと誤解した。

凡例

- 順走
- 順走(想定)
- 逆走(実際)
- ★ 逆走開始



8) 逆走→順走

- 転回して、H市方面の本線に入った。

10) 順送→確保

- 「逆走車あり」の情報板を見て「自分のことかな」と思った。



5) 逆走開始

- バックした後、コーンの間を通り抜け、対向車線に入った。



6) 逆走中

- 進入禁止の標識、進行方向の路面標示は確認できなかった。



7) 逆走中

- 違和感を覚え始めた。

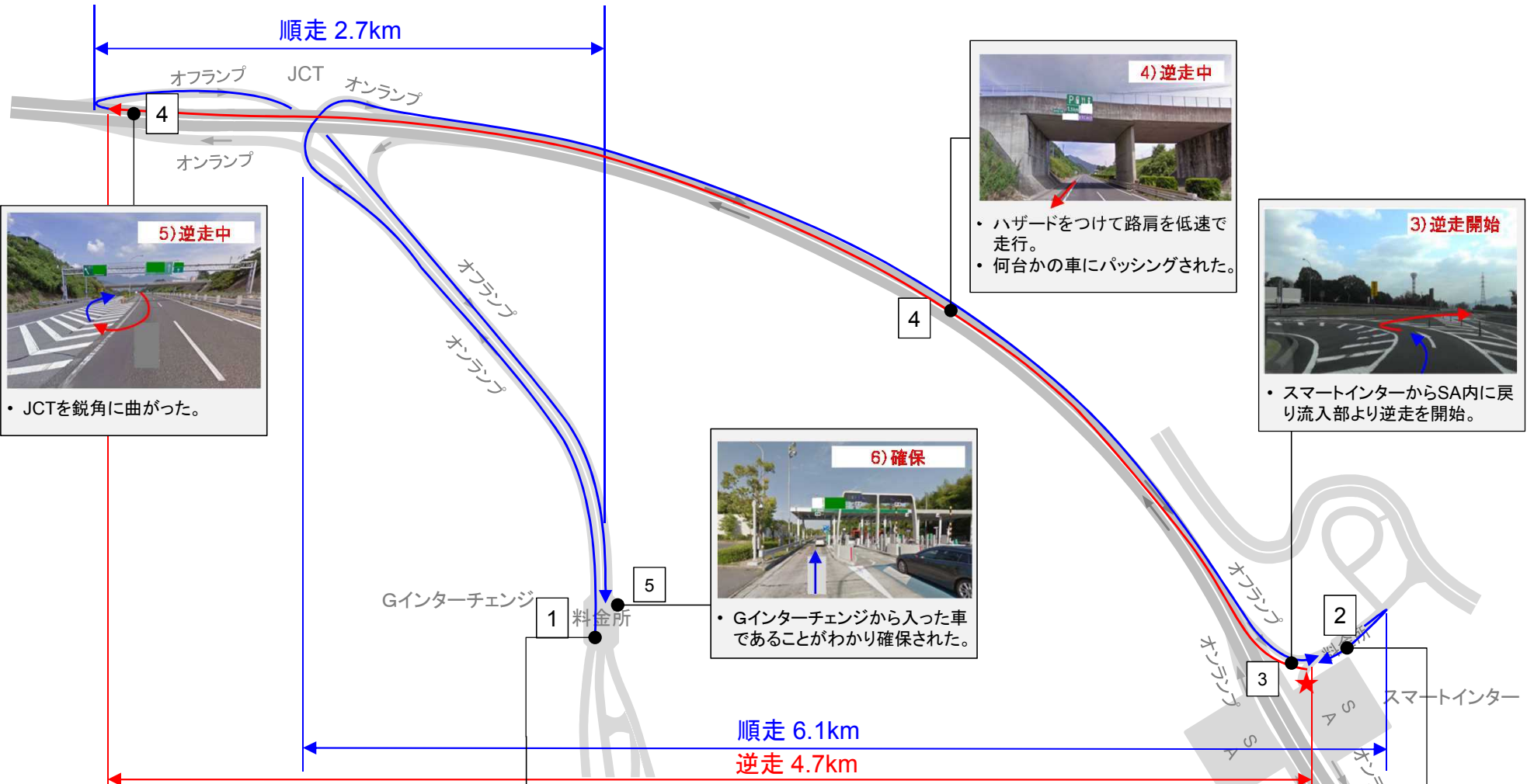
# E自動車道 Fサービスエリア（逆走状況詳細）

- ①事案種別 : **確保** 事故
- ②確保日時 : 10月、16時台
- ③年齢・性別 : 70代男性

- ④高速利用頻度 : ほとんど利用しない
- ⑤逆走の認識 : あり ※逆走の途中で認識した
- ⑥対策実施状況 : 本線合流部(矢印路面標示、ラバーポール)  
休憩施設への流入部(矢印路面標示、注意喚起看板)

		1 逆走前	2 逆走前	3 逆走開始	4 逆走中	5 確保
現地写真						
	運転者の口述による	<p>標識等の認識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自宅付近のホームセンターに買い物に出かけた。</li> <li>• Gインターチェンジで通行券を取らなかったため料金所受付員に呼び止められるも耳が遠かったためか、そのまま通過。</li> <li>• 標識を確認した覚えはない。</li> </ul>	<p>走行状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スマートインターから出ようとすもETCを装備していないため、出られず料金所受付員の誘導によりUターンした。</li> </ul>	<p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スマートインターからFサービスエリア内に戻り、流入部より逆走を開始。</li> </ul>	<p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハザードをつけて路肩を低速で走行。</li> <li>• 何台かの車にパッシングされた。</li> <li>• JCTを鋭角に曲がった。</li> </ul>	<p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Gインターチェンジから入った車であることがわかり確保された。</li> </ul>
知見		—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 路面と標識のカラー連携標示などわかりやすい案内誘導が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 逆走となった場合の対処方法を周知することが有効。</li> </ul>	—

# E自動車道 Fサービスエリア (逆走発生プロセス)



- 凡例
- : 順走
  - : 逆走(実際)
  - ★ : 逆走開始

